

榊原病院

Monthly

Vol.64

2023.August

この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である
The most important person in this hospital is the patient.

独立行政法人国立病院機構 榊原病院
National Hospital Organization SAKAKIBARA Hospital

院長

村田 昌彦(むらた まさひこ)

1962年生まれ

1991年富山医科薬科大学医学部卒

1996年同医学部大学院卒

2014年国立病院機構北陸病院精神科部長

2015年国立病院機構榊原病院副院長を経て、2018年国立病院機構榊原病院院長就任。

日本司法精神医学会理事。



病院理念 この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である

榊原病院に赴任して

事務部長 北山 淳一

令和5年4月に榊原病院に赴任してまいりました事務部長の北山と申します。気がつけば、もうすでに4ヶ月が過ぎていました。

4月に赴任した頃には、榊原病院への道中の桜がとてもきれいで感動し、5月、6月になると田んぼや山、木々が鮮やかなグリーン色となり、その景色に心が和み、心が洗われました。

私は三重県で勤務するのは2度目で、15年程前に同じ津市にある病院に3年間勤務していました。その当時、同じ津市でも榊原町にはあまり訪れたことがなく、こんな自然豊かな素晴らしい環境の中に榊原病院があることを赴任して知りました。

病院の建物は、古さを感じますが、病棟内については、2年程前に病棟改修工事が完成し、精神科としてはめずらしいナースステーションのオープンカウンター化や保護室の模様替え、浴槽の個浴化などが整備されました。また、病棟内の動線が長く、見通しの悪いことも本改修により改善が図られ、より療養環境の整った病棟となりました。病院の理念である「この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である」に沿った治療や療養に繋がっているものと思えました。

榊原病院では、地域に密着した活動として、榊原地区の皆様及び市民の皆様への情報発信による市民公開講座の開催や地域における様々な協議会等にも積極的に参加し、情報収集に取り組んできています。これは、私の重要な役割であり、特に全力で取り組んでいきたいと考えております。また、医療機関様や療養施設様等との地域連携に関しましても更に連携を深めて、地域の医療にも貢献していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

最後に、榊原病院が地域に必要なとされる病院であり続けることを最大限努力していく所存でございますので、皆様からのご意見、ご要望等ございましたら、お伝えいただければと思っております。

今後ともよろしくごお願い申し上げます。

診療科

- ・ 一般精神科
- ・ アルコール・薬物依存症
- ・ 専門外来
- ・ こころのリスク外来

病床数 175床

- ・ 精神科病棟 157床
- ・ 医療観察法 18床
- ・ 強度行動障害ユニット



電車・バス/ 近鉄久居駅下車 三交バス
(車庫前行き) 約30分

自動車/ 久居インターより約20分

マイクロバス/ 久居駅より直通バス(約25分)



病院マスコットキャラクター「さかっさー」



地域医療連携室だより

〈医療福祉相談のご案内〉

経済的な心配、福祉サービスの利用、退院後の生活など病気によって生じた生活上の困り事について、精神保健福祉士がご相談に応じます。相談をご希望の方は、主治医、看護師及び医事受付まで申し出てください。

ゆうはあと訪問看護ステーション

令和元年6月に「ゆうはあと訪問看護ステーション」を開設しました。利用者様が地域で安心して暮らしていけることを目標として訪問看護を提供しています。症状の観察や相談・お薬の管理・通院継続の支援・対人関係・コミュニケーションへの支援など、心身の回復のお手伝いを目的として行っています。

私たち「ゆうはあと」は、あなたの療養、そして暮らしを支えます。少しでも豊かに、少しずつ豊かになりますようにここで支えます。

治療抵抗性精神疾患への医療

〈クロザピンの治療状況〉

治療抵抗性統合失調症に対して、平成26年10月に1例目の投与を開始し、令和5年7月までに全症例は142例となりました。新規導入は6月1例、7月1例でした。順次投与を開始する予定です。クロザピン通院専門外来も開設しております。



認知症医療、こころのリスク外来

〈認知症医療〉

認知症の患者様は高齢であることから、様々な合併症をお持ちの方が多くおられます。また、アルコール問題の後に認知機能が低下することや、さらに身体疾患に併発した認知機能の障害は、若年の方にも見られます。

したがって、現在は80歳以上の超高齢の方と50～60代の若年の方に認知症が発症する傾向が多く見られます。身体的な問題については、法人内病院である三重中央医療センターと連携を図りながら、幻覚や妄想、不穏など認知症の周辺症状（BPSD）に対応しています。一般病院や介護施設において、BPSDの問題でお困りの場合はご相談ください。

〈こころのリスク外来〉

思春期・青年期はこころのリスク状態が高まり、さまざまなこころの病気を発症しやすいと言われています。当外来はこころのリスク状態を早期に発見・治療していくための専門外来ですので、お気軽にご相談ください。



デイ・ケア案内

デイケアは南2階で月、火、水、金の9:30から15:30まで活動しています。

日中に通う場所を持つことで、生活リズムを整えたり、仕事や作業所に通う体力を獲得したりする効果があります。それぞれの方がリカバリーに向けて、プログラムに取り組んだり、他の方々と一緒に活動したりして、進んでいけます。とはいえ、何かに向かって進むだけがリカバリーではありません。デイケアを利用しながら、のんびりと休憩を取っていただくことも大切な時間だとスタッフは考えています。

デイケアを利用してくださる方は、1日あたり10人～20人です。10代から70代まで、幅広い年代の方々が利用されています。運動、ヨガ、レクリエーションゲーム、コミュニケーションの勉強、SST、カラオケ、アート等様々なプログラムがあり、それぞれの方のニーズに合わせて活動いただいています。病院のホームページや、外来に月間プログラムがありますので、どうぞご覧ください。



今の花壇の様子です。
今は朝顔が元気で、
今は朝顔が元気で、



ある日の散歩の風景です。

ホームページに「デイケアでの感染予防プログラムの学びと実践の取り組みについて」を掲載しています。

デイケア案内、プログラム表については、こちらをご覧ください。



栄養コラム



日頃の食事から夏バテを予防しましょう！

暑さのせいで体調が優れない、食欲がわかないなど、夏バテの症状はでていませんか？今回は、日頃の食事での夏バテ対策のポイントをご紹介します。豚肉やウナギ、玄米や大豆、オートミールなどビタミンB1を多く含む食品は疲労回復効果があります。水に溶けやすい性質を持つため、豚肉などはゆでる調理法だと栄養素を逃してしまいます。スープや炒め物などの調理がおすすめです。暑さやだるさなどでストレスを感じるとビタミンCが消費されます。旬の夏野菜だとトマト、ゴーヤ、ピーマンなどに多く含まれます。野菜は毎食摂取することを意識しましょう。

暑さで食欲が落ちて欠食が増えると、体に必要な栄養素が不足し、疲れやすくなってしまいます。バランス良く食べて暑い夏を元気に過ごしましょう！